

読者推薦
インタビュー

ワクワク、ドキドキで 子どもの夢を育む
生まれてきて良かった…と感じてもらうために
自然豊かな地で「心の原風景」をめざす

ふとしたことからアフリカ（エチオピア）のボランティア活動に参加した一人の女性——その経験が彼女の人生を変えるきっかけになりました。

福島県玉川村で児童養護施設「森の風学園」を運営する熊田富美子さん（60歳・社会福祉法人ゆめみの理事長）は、貧しくとも目をキラキラ輝かせて生きるアフリカの子どもたちと出会い、自分のやりたいうちに気づいたと言います。日本で、心の豊かさを失いつつある子どもたちに寄り添う児童養護施設を立ち上げよう…心を痛め、様々な問題を抱える子どもや、育児に不安を持つ親たちをサポートしよう…と。アフリカで鍛えた頑丈な精神力と経験が彼女の味方になりました。

今回は、施設立ち上げから5年の経緯と熊田さんの子どもたちへの思いをお聞きます。

——森の風学園には、主にどのような子どもたちが入所しているのですか？

熊田…一番多いのは親による虐待です。最近では、子どもの前での夫婦喧嘩や言葉による暴力など精神的な虐待も増えており、育児放棄や暴力などもそれに含まれます。そういう子どもたちは一時的に児童相談所で保護しますが、その後親の状況、親せきや里親などで保護できるかどうかを調べ、受け入れ先の難しい場合のみ児童養護施設に入所させます。森の風学園では現在、4歳から高校4年（通信制）の19歳まで24人の子どもたちが入所しています。



——そもそも、一番最初に児童養護施設をつくりたいと思ったきっかけは何ですか？

熊田…私は須賀川出身で、親は農業をやっていました。ただ、母親が託児所や保育園をやっていたことや、近所の自立支援事業所から子どもたちが農業の手伝いに来ていたこともあり、私自身、子どもと関わりのある環境は素地としてあったと思います。でも、一番のきっかけはアフリカです。それがなかったら、間違いなく今の私は存在していませんでした。



——アフリカに行くことになったきっかけを聞かせてください

熊田…新妻香織さん※との出会いです。今から20年前、私はその頃、兄が経営していた幼稚園で事務の手伝いをしたりピアノ教室などをやっていたのですが、ある日幼稚

園でヴァイオリンコンサートを主催した際、打ち上げに参加した新妻さんとお会いしました。

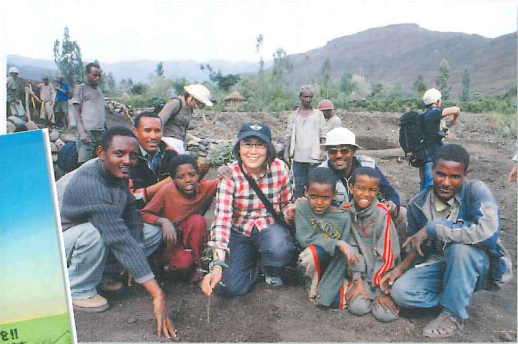
※新妻香織氏（NPO法人フー太郎の森基金理事長）アフリカの緑化プロジェクトを中心に、水資源開発や生活改善プロジェクトなど環境保護活動に携わる。日本国内でも環境に関わるキャンペーン事業などを行っている。

ある女性との出会いが運命を変えた…？
すべてを捨ててアフリカへと旅立つ

私は新妻さんの話を聞いているうちに、彼女がやろうとしている活動に共感して、つい「アフリカに行きたい！」と言ってしまったようです。新妻さんは寄付を募りながら、アフリカの水と緑を守る活動を共にしてくれる共同者を探しており、それにまんまと乗ってしまっただけで私でした（笑）。数日して、「3ヶ月後にアフリカに行くのでよろしく」という連絡が来てビックリしました。

——つまり、捕まっちゃった！
勇氣ある決断だと思えますが、断ろうとは思わなかった？

熊田…一度約束したからには断れないと思っ、幼稚園の仕事やピアノ教室をやめて行くことにしました。まずは寄付集めのキャンペーン。四国から青森まで1万キロを45日かけてワゴン車で回りました。新妻さんは、アフリカ横断記「楽園に帰ろう」で第3回蓮如賞というノンフィクション文学賞を受賞してファンが全国にいたので、毎日講演会や演奏会を開催して、総額350万円の寄付を集めました。



ラリベラの子どもたちと新妻香織さん(中央)



寄付キャンペーンに合わせて出版した新妻香織さんの絵本

そして3ヶ月後の1999年7月、私は40歳の誕生日にアフリカエチオピアのラリベラという村へと旅立ちました。

——エチオピアではどんな仕事をし、また、そこでどんなことを感じましたか？

熊田…私は、初代駐在員として2

書きたいこと、伝えたいことが変わっても
テーマは、今も「ふくしまの暮らし」



玉川村四辻に建設された児童養護施設「森の風学園」
床面積 976㎡の建物は、自然素材を使ったシックハウスゼロのシュ
ナイター工法で建てられている。内装も外装も無垢の素材で作られて
おり、そこにいるだけで心が癒される…。

管理棟「風」入口

たった一人、異国の地で過ごした2年半
体当たりの人生から見えたもの…

年半、現地で植林斡旋の事業に携
わりました。現地の言葉はもちろ
ん英語も殆どできなかったので、
日々の生活の中で言葉を学び、村
の人たちに嫌われないよう、ひた
すら笑顔で接していました。

エチオピアは本当に貧しい国な
のに、子どもたちの顔には全く悲
壮感というものは感じられませ
んでした。ラリベラでは、若い人た
ちは都会に働きに行くため、子ど
もを育てるのは近所のおばさんた
ちです。つまり地域ぐるみで子育
てをしていました。子どもたちも
大きい子が小さい子の面倒を見る
習慣が出来ているので、仮に14
15歳で子どもを産んでも何の不安
もなく子育てが出来るとです。そ
ういう環境の中で育った子どもた
ちは、キラキラした目をして、い
つもニコニコ笑っていました。正
直、「これはスゴイことだ…」と思
いました。貧しくとも、真の心の
豊かさを感じたんです。

——エチオピアで過ごした2年間
が、帰国後、熊田さんの生き方に
どんな影響を与えましたか？

熊田…まず、日本に帰って来て感
じたのは、大人も子どもも心の豊
かさが希薄になってきているとい
うことでした。私が育った昭和の時
代は、子どもは地域で育てていた
と思います。悪いことをすれば家
族以外でも注意していました。今
はどうでしょう…「これは何とかし
なくては」と思いました。そう
なると、仕事をしていても気がな
って仕方がありません。帰国後は保
育園の園長をしていましたが、の
びのびと成長している園児たちと
接していても、常にエチオピアの
子どもたちのことが気になってい
ました。そのうち、日本の子ども
たちをサポートする仕事に児童養
護施設をやりたいと思うようにな
りました。子どもだけでなく、お
母さん達のサポートもしたい…私
には、心を痛める子どもや難しい

問題を抱えている子どもたちを支
援する強さがある、アフリカで鍛
えた頑丈な精神力もある——そう
思ったとき、思い切って新しい人
生の舵を切ろうと思いました。

——児童養護施設をつくるに当
たっては、並々ならぬ苦労もあつ
たと思いますが。

熊田…児童養護施設を立ち上げる
にあたって、まず社会福祉法人を
取得するための準備金と土地の工
面をしなければなりません。最
小限必要な基本財産がなければ
申請が通らないんです。お金は2
000〜3000万円必要で、そ
れは地道に寄付を募ることとし、
同時に土地探しも始めました。自
然が豊かで子どもたちが思いっき
り活動できる場所…それが条件
でした。最初に見つけた4万坪の
空き地は、山の中で環境もよくと
ても気に入ったのですが、後ろ盾
のない私にお金を貸してくれる銀
行が見つからず断念。諦めきれな
い思いを抱えていた時、私が養護
施設をやりたいと話しているの
を偶然耳にした方から、5000

——東日本震災によって、児童
養護施設設立の計画はどうなりま
したか？

熊田…計画はダメになるかと思
いましたが、逆でした。当時、原発
事故のあった福島を応援しようと
多くの団体から私の保育園にも寄
付や支援物資が届きましたが、そ
のつながりから児童養護施設設立
の基金へも協力いただくことが出
来ました。それを合わせて250
0万円を準備金とし、2013年
7月に社会福祉法人ゆめみの里が
認可されました。そして、翌20
14年12月1日に児童養護施設「森
の風学園」を開園。24日には最初
の子どもたちが入所してきました。

——施設に入所してくる子どもた
ちの様子はどんな感じですか？

熊田…私は十数年保育園の園長を
やってきましたが、小さなお子さ
んほど親と離れる時に泣くもので
す。それは親と子の愛着関係がしつ
かり築かれているからです。しか
し、ここに入所する子どもたちは
殆ど泣きません。感情がストッ
プしてしまい、諦めているんです。



▲樺、くぬぎ、山桜、朴の木などに囲まれた自然豊かな敷地

坪の土地を使って欲しいとの申し
出がありました。そこは、私が玉
川村から郡山に車で抜ける時「ス
テキな場所だなあ」と思いながら
見ていた憧れの場所。教育や福祉
のために使って欲しいというオー
ナーさんからの申し出により、建
物の敷地分を購入させて頂き、そ
れ以外はお借りすることにしま
した。その後、土地が決まったので
いよいよ計画を立てようという時
に、東日本震災が起きました。

泣いてもミルクがもらえない、オ
ムツも交換してもらえないという
経験が長くなると、感情の動きが
鈍くなってきます。私にとっては
それが一番のショックでした。ま
た、子どもたちの成育歴に愕然と
することもあります。親の虐待、
ネグレクトだけでなく、母親が何
度も再婚を繰り返したり、養父か
らの暴力などもあります。そうい
う中で育った子どもは、心の中に
怒りをたくさん持っていて、ちょっ
とした事でもカッと成って物を壊
したりすることがあります。それ
でも、ここに入所して職員との信
頼関係が出来てくると、愛着関係
も少しずつ育まれてきます。それ
によって激しい気性が納まり、自
分から物を壊すようなこともな
くなってきます。子どもたちの辛さ
を心から受け止め、その中でがん
ばって来たことを認めてあげ、絶
対に見放さないということを伝え
てあげれば、自分から「ごめん
さい」が言えるようになってしま
す。親との関りも大事ですが、そ
れだけで愛着関係が育つというも

職員と子どもたちのふれあいの中で育つ 優しさと思いやりの心を大切に...

のでもありません。そして、さらに大切な要素が自然との触れ合いです。豊かな発想や集中力、充実感を育てるために、自然の中で遊ばせることはとても効果があります。自然はワクワク、ドキドキが広がります。物にさわることが出来なかった感覚過敏の子どもも、つい触ってみたくなる…。この場所を選んだのは、そういう重要な意味があったからです。



自然の中での遊びは、豊かな心と想像力を育てる



愛犬 風太



——「森の風学園」の子どもたちの生活など教えてください。

熊田…学園の建物は3棟に分かれており、1棟は男子中高生7名、2棟が異世代の子ども7名、8名が家族のように暮らしています。職員は23名いますが、子どもたちを世話する直接処遇職員は12名。1棟につき4名が24時間のローテーションを組んで子どもたちと一緒に生活しています。職



林の中にひっそりと佇む「木蓮庵」…子どもたちの心を癒す場所として利用されている。

員とはいつでも会話が出来た環境にあるので、日々のふれあいの中で少しずつ愛着関係も育ちつつあるのかなと思います。学校や保育園には職員がそれぞれ車で送迎しています。中高生は部活動もあるので、それに合わせて迎えに行くなど大変な部分もありますが、みなさん本当に良くやってくれます。子どもたちが一番イキイキとしているのは、やはり自然の中で遊んでいる時ですね。優しい子が多く、日曜日などは年上の子が小さい子の面倒を見て鬼ごっこをする姿なども見かけます。



園開設から5年が経ちましたが、一番うれしかったことはどんなことですか？

熊田…いっぱいあります。子どもが自分から「ごめんさい」が言えるようになった時、人を褒めることが出来なかった子が、先輩に「スゴイ、俺にはできない！」と言えた時、私が頼んだものを学校に忘れてきてしまい、何とか取りに行こうとがんばってくれた子どもの気持ちなど、普通なら何でもないようなことですが、その子ども

にとつてはスゴイ進歩なので、その一つ一つが嬉しいですね。誰かを思いやる気持ちが育ってきたということなので…。こういう話は日々たくさんあります。

——子どもと関わる中で一番大切な事は何ですか。周りの大人たちがやってあげられることは？

熊田…ワクワク、ウキウキした気持ちが大切なのですが、一番はそこに至るまでの愛情の深さです。本当にワクワクした気持ちになるには、地面に根っこが張った状態が必要なんです。少々のことでは倒れない根っこが。ここにいる子どもたちは、愛という栄養をちゃんともらっていないため根っこが張れない状態です。しっかり根を張ってあげればワクワクした気持ちも出てきますが、それがなければ、やりたい気持ちも生まれません。だから、「アナタのことが本当に大切だよ」と感じられる環境を作ってあげることが大事だと思います。

「愛」の栄養で根っこを育て 子どもたちに「生きる力」を与えたい...

——県からの補助があるとはいえ、学園を運営していくのは大変ではありませんか？

熊田…県からの措置費は、子どもが育つための費用と職員の給与だけで、一般家庭のように当たり前の生活をさせてあげたいと思うと難しい面もあります。日帰り旅行は出来ても、デイズニールランドに泊りがけでいくのは大変ですし、高校生の部活動費は措置費に含まれないなどの規則もあるので、そういうものは寄付などに頼るしかありません。今年完成したグラウンドも、費用150万円をクラウドファンディングで集め、工事も半分はボランティアでやっていたのできました。建物を建てるときの資金の返済も含め、諸々のお金の工面が私の役目ですが、なかなか大変です。子どもたちの学習ボランティアも、場所が離れているので継続して来てくれる人がなかなか見つかりません。

——今後、子どもたちにとってあげたいことは？

熊田…この場所を、心の『原風景』として残してあげたいですね。ここを巣立った後に何かで思い悩んだ時、「あそこに戻りたい」と思えるような…。この子どもたちは、基本的に親の所には戻れないケースがほとんどですが、それでも最終的には「生まれてきて良かった」と思えるように、関りをつくっていきたいと思います。その前段階として、ここを故郷として思ってもらう事が大事です。

1年前に末期癌の宣告を受けたという熊田理事長。大変な手術と治療をしたとは思えないほどサラリと話す。まさに波乱に富んだ人生ともいえるが、常に子どもファーストの精神を貫き、同じ星の下に生まれた子どもたちの未来を平等に開いて行こうとする思いの強さが伝わってくる。一番の楽しみは学園で子どもたちとふれあっている時。そのためにもこれからやりたいことは一杯ある…と言った。

社会福祉法人 ゆめみの里

- ★児童養護施設 森の風学園
福島県石川郡玉川村四辻新田諏訪平 125-5
- ★児童発達支援事業所 らぼらぼら
心身の発達に心配のある未就学児の療育を行います。
福島県須賀川市上人担 144 TEL0248-94-2709
- ★相談支援事業所 いなんくる
障害を持つ本人、家族が抱える課題の解決やサービス利用について、相談・支援をしています。
福島県須賀川市上人担 144 TEL0248-94-2707

※社会福祉法人「ゆめみの里」への寄付をお願いします。詳しくはホームページをご覧ください



推薦のことば — 矢口 洋子(福島市)

私が初めて「ゆめみの里」に伺ったのは、昨年6月の事。兵庫県の運送会社社長・木南一志氏からお話を頂き、東日本大震災の被災地応援のために制作した写真コラボ集「綿毛にのって」の益金を寄付するためでした。緑に囲まれた森の中に佇む木蓮庵で熊田富美子さんにお話を伺い、施設の見学をさせて頂きましたが、その時の熊田さんの印象は「いっぱいんのマリア様」の一言でした。子どもたち一人一人に愛情を注ぎ、自立へと導く姿に感動！でした。年々増える親子の悲しい事件… 児童養護施設で生きる子どもたちに、永遠の幸あれと祈るばかりです。